

令和4年度東郷町地域支え合い協議体の活動報告書

1 進捗状況

(1) 各圏域（北部及び南部）での第2層協議体の継続

- ・令和4年2月及び3月に実施したプレ協議体を経て、令和4年4月から各圏域（北部及び南部）に月1回、定期的に協議体を開催。
- ・通常の会議形式ではなく、住民同士でざくばらんに地域の情報交換を行う。
- ・参加者は、民生委員、自治会長、サロン運営者、ボランティア活動者など多様な住民の集まりで、各々の視点で意見や情報交換を行う。
- ・「住民の支え合い活動の中で少し工夫すればできそうなこと」という視点で話し合いを継続していき、今後は、小さな支え合い活動が生まれることを期待する。
- ・関係者として、地域包括支援センター、地域支え合いコーディネーター、町職員も一緒に参加している。



【南部協議体】



【北部協議体】

(2) 南北協議体交流会

日 時 令和4年7月19日（火）午後1時30分～3時35分

場 所 役場 大会議室

参加者 北部協議体5人、南部協議体9人

助言者 公益財団法人さわやか福祉財団 長瀬 純治氏（愛知県助言者派遣事業）

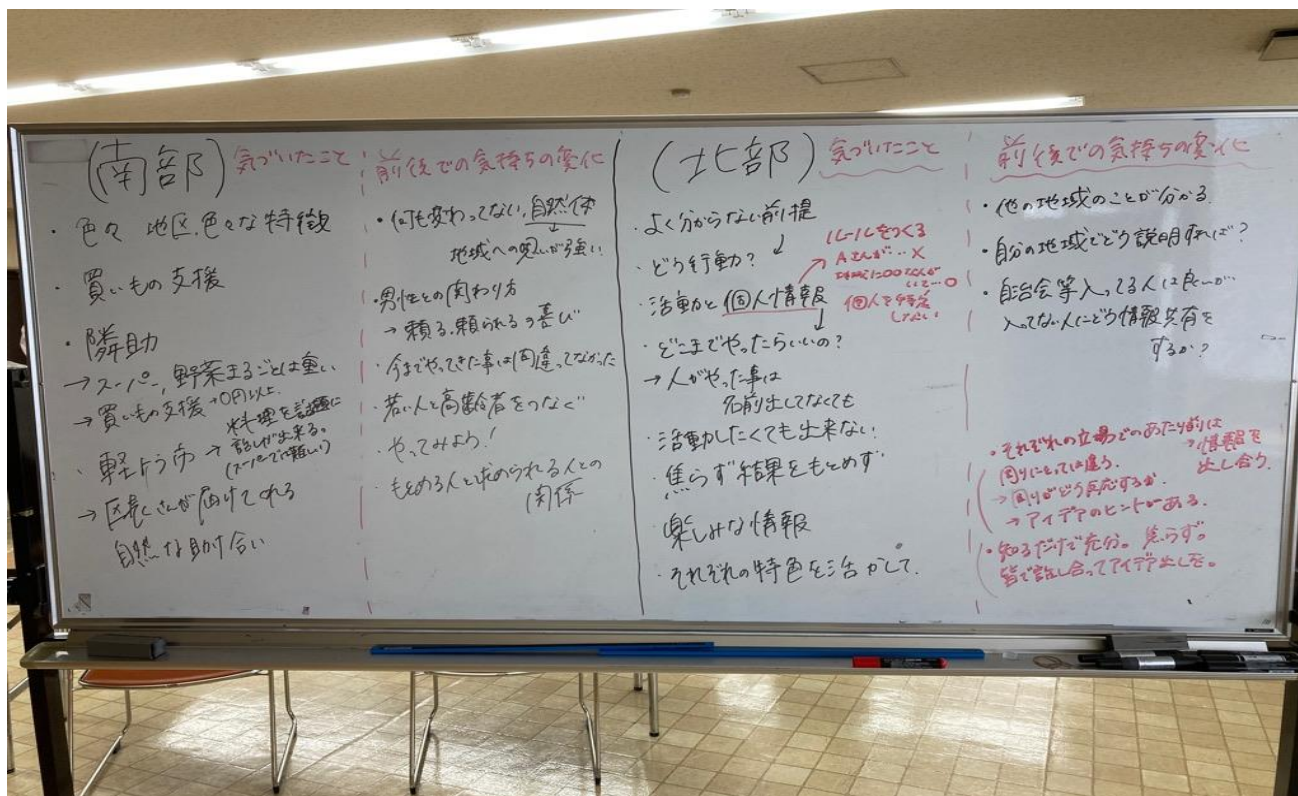
内 容 ①各協議体の活動報告

②地域支え合い協議体の制度の振り返り

③各協議体のグループワーク

- ・協議体をやってみて気づいたこと
- ・協議体参加前と後の自分自身の意識の変化
- ・今後やってみたいこと（展望を語る）





【協議体構成員からの意見】(抜粋)

●協議体議体をやってみて気づいたこと

- ・他の地域のこと became 分かるようになった。様々な取り組みをしているのだと感じた。
- ・焦らず、結果を求めず、楽しい情報を出し合っていければよいと思った。活動を続けていくことが大切だと気づいた。

●協議体参加前と後の自分自身の意識の変化

- ・他の地域のこと became 分かるようになって、自分として大変ためになる一方で、地域に持ち帰ってどのように還元したらよいか悩む。
- ・特に何も変わっていない。逆に今まで地域のためにやってきたことは間違っていなかったと気づくことができた。

●今後やってみたいこと (展望)

- ・若い人にも入ってほしい。ゲストのような形で中学生や高校生など読んで地域について聞いてみたい。
- ・楽しく、誰でも気軽に参加ができる雰囲気を維持したい。否定せず、焦らず、結果を求めず、何度も繰り返しトライして、支え合いの仕組みが増えとよい。
- ・住民の声を拾って、住民に協力が得られるようにしていきたい。

2 その他

介護保険外サービス情報冊子「暮らしの応援ガイドブック」と通いの場の冊子の見直しを行い、令和4年度中に発行する予定で進めている。住民を始め、居宅介護支援事業所等へも配布し、介護保険サービスのみならず、地域の資源を積極的に活用していただけるように情報提供の媒体として活用する。